

令和5年度 学校関係者評価委員会 報告

1. 実施日時

令和6年5月18日(土)9時~10時

2. 学校関係者評価委員

- ・看護学校管理者
- ・卒業生代表(同窓会会長)
- ・保護者代表

3. 学校評価の対象

- ・令和5年度教員による自己点検・自己評価
- ・令和5年度卒業時到達目標の達成度(卒業生自己評価)

4. 学校関係者評価委員会による主な意見および課題

○ 令和5年度は2年課程最後の卒業生を輩出。令和6年度は3年課程が1年生から3年生まで揃い、初めての卒業生を送り出す年となる。

* I(教育理念・教育目的)については3.0pと高得点である。3年課程が開設され3年目、理念や目的が浸透してきた。今後は、カリキュラムを評価しPDCAサイクルを円滑にしていく必要がある。

* III(教育課程経営)では、教員の教育・研究活動の充実に関する項目においてややポイントが下降した。開設して2年目、2年次の授業は専任教員の担当する科目が多く、教員数の割には授業時間数の多くなったことが影響する。教員のモチベーションの維持向上に努め、教員の確保対策に努めて必要がある。

* V(経営・管理過程)の自己点検・自己評価体制については、評価のための評価とならないよう、自己点検の必要性の再確認と、自己点検を行ったことがどのように活かされたのかを可視化していく必要がある。

* VIII(地域社会)については、地域・在宅看護論実習において1年次に自治会・老人クラブや児童館子育て支援センター、社会福祉協議会、健診センター、診療所・病院で実習を行い、3年次には地域包括支援センターや高齢者施設の実習をとおして、地域で生活する人々の暮らしを知り、人々の価値観に触れることで、地域包括ケアシステムの中で活躍できる看護職の育成を目指して

いる。また、学生自治会活動をとおしてクリスマスイベントやボランティア活動を行っている。地域医療では、多職種と連携協働する力が重要となる。まずは、地域の人々の多様性や地域の暮らしを支える関係職種・関係機関を知るために、実習場所(施設)の拡大や実習方法の工夫、授業内容との関連性を高めていく必要がある。

* VII(卒業・就業・進学)について、3年課程においては進路指導について1年次より計画的に実施している。学生ひとり一人、なりたい看護師、目指す看護ができるように、進路支援を行っている。令和6年度は初めての卒業生を輩出するので楽しみであり期待している。

* VIII(国際交流)については、今年度より3学年がそろうので学校祭を計画するが、その中で多国籍の方との交流の場を検討する。また視野を広げるための授業や研修を計画していく。

* IX(研究)は、看護学雑誌の「看護教育」に実習の取り組みについて投稿、忙しい中にも取り組んだことを評価する。継続して欲しい。